

非神経系臓器におけるプリオン分布の解析— 侵襲性の低い確定診断法の開発

研究分担者:長崎大学大学院医歯薬総合研究科感染分子解析学 西田教行

遺伝性プリオン病患者の非中枢神経系組織におけるシード活性の定量

組織	GSS	gCJD	組織	GSS	gCJD
大脳	11.17	11.17	脾臓	≤ 5.63	8.04
腸間膜			腎臓	7.02	9.20
大網	≤ 5.69		副腎	7.60	9.90
直腸			肝臓	7.49	9.56
S状結腸		7.47	肺	7.52	8.37
下行結腸			胆嚢		8.84
横行結腸	8.46	≤ 5.80	横隔膜		
上行結腸			前縦隔脂肪織		
盲腸	8.33	<6.64	左室心尖		
虫垂	7.30	7.23	大胸筋		
回腸末端	6.89	7.17	大動脈		
空腸	7.22	≤ 6.33	甲状腺		8.80
十二指腸	≤ 6.57	6.81	尿管		9.50
胃	7.34	8.21	膀胱		8.80
胃・食道結合部	6.93		心		
食道		8.50			

解 説

1. Real-time quaking-induced conversion(RT-QUIC)法は、プリオンの活性を定量的に評価でき感染性を推測可能である。末梢臓器における50%シード活性(SD50/g)を求めた。
2. 遺伝性プリオン病におけるシード活性は中枢神経系の100分の1相当あるいは
3. それ以下であるが、腸管を含む検査し得たほとんど全ての組織にシード活性を認めた。